

ウルリム
響

星 環

特定非営利活動法人

聖公会生野センター機関誌

第73号

2021年6月25日発行

題字：康秀峰

URL <http://www.nskk.org/province/ikuno>

E-mail: nskkikuno@gmail.com

聖公会生野センター

検索

さんきらい

無期刑受刑者支援プロジェクト「山帰来」に参加して

クララ 篠田 茜

国連の死刑廃止国際条約が発効されて20年、日本では死刑廃止の批准を求めて様々に活動が続けられています。しかし、「死刑」と「有期刑」のはざまにあるのが「無期刑」です。

命を奪う死刑はあってはならないものですが、過酷な無期刑受刑者の実状はあまり知られていません。2019年の無期刑受刑者は1765人、110人前後の死刑囚は名前などを知ることができるのに対して、無期刑受刑者は名前もほとんど知られておらず世間から忘れ去られた存在になっています。刑法第28条で仮釈放が認められているものの、それには身元引受人が必要であり、仮釈放が許されなければ、死亡するまで刑務所等の刑事施設で懲役を科され続けることとなります。身元引受人がいない人を引き受ける更生保護施設も無期の人は原則的に受け入れていないとのこと、また運よく身元引受人が見つかり仮釈放が許されたとしても、一生保護観察下に置かれ、恩赦がなされない限り、生涯、国の監督下に置かれることとなります。

仮釈放までの年数もここ10年ほどは30年から35年で、1980年代には大半が20年以内であったのに比べ長くなっています。法務省のウェブサイトによると、2010年から2019年までで仮釈放された無期刑受刑者100人に対し刑務所内で死亡した人は217人で、亡くなるまで刑務所にいる人のほうが多いのが現状です。日弁連では無期刑は事実上「終身刑」化しているとも指摘しています。長期入所のため家族や知

人と音信不通や絶縁状態になり、仮釈放されても生きていくすべを見つけ社会復帰することは現実にはたいへん困難です。

2018年に始められた「山帰来」の目的には「無期刑受刑者と支援者が文通や面会を通して、霊的・精神的に交流し、その思いを互いに表現して生きる力とすることです」とあり、文通や定期的な面会、身元引受人になること、仮釈放後の支援、受刑者とともに国に刑務所での処遇改善を求めるなどの活動をしています。会員は現在約25人、曹洞宗の僧侶、日本キリスト教団の牧師や聖公会の司祭、アムネスティの会員、無期刑受刑者の国賠訴訟の原告、社会福祉士などで、受刑者の会員（文通者）も30人ほどが登録しています。会報も年数回発行されるようになりました。

私の文通は、何かの役に立つのならという気持ちからでしたが、引き受けたものの、不安がなかったかと言えばウソになります。それでも月1回のやりとりが始まり2年がたちました。始めてみると、映画や本の話、ご家族のこと、刑務所の様子、被害者の方への思いなど自然に話題が広がり、やりとりができ、いつの間にか文通相手は「普通の人」となり、不安はなくなりました。「霊的・精神的な交流」になっているかどうかはわかりませんが、外の世界とつながっていてひとりではないことを感じてもらいたいと思います。無期刑受刑者の存在が少しでも知られることを願っています。

(しのだ・あかね 聖贖主教会信徒)

聖公会生野センター30周年を前にして

1992年春、大阪へ戻り派遣されたのが聖公会生野センター、聖ガブリエル教会、こひつじ乳児保育園でした。この三者、そして在日、韓国、日本という三者協働の歩みが理念として示されていたことを意義深く感じ、身の震える思いで生野へ来たのはつい昨日のことのようです。

実は、私が神学校一年目の大阪教区での夏期教会実習先が、聖ガブリエル教会でした。初代牧師張本栄司祭夫人の河運貫さんと出会い、別れ際に「必ずまた帰っておいで」と声をかけられていたことが実現し、それも、在日・韓・日の新しい関係を生む使命を担う三者協働の歩みとして出発する起点に立てたことは深いお導きだったと感謝しています。今も主事として働いておられる呉光現氏のアイデア、人脈と突破力で、

司祭 テモテ 宮嶋 眞

あれもやりたい、これはどうかと、話し、即決し、その一つ一つが実現していく過程は本当に幸せな時でした。

こみち寄席、韓国語教室、FMサラン、阪神淡路大震災後の長田センター、FMわいわい、絵画教室、ぼちぼちクラブ、HIT、、、

また、生野にある教派を越えた教会との交わり、社会福祉の団体、ボランティア団体とのネットワークによる取り組みなど数えればきりがありません。

今、不安定で信頼を失っているように見える日韓関係ですが、在日・韓・日聖公会の皆様の力強いお支えを受けながら聖公会生野センターが歩んできた道は、そんなことではびくともしない三者が協働する礎を築いたものと信じます。

(みやじま・まこと 京都教区退職司祭)

30周年によせて

聖公会生野センターの30年間の歩みに貫かれているのは、弱くされている人たちの側に立つこと、そして共に生きようとする事です。力の弱い人たちや声の小さい人たちが最優先される多文化共生社会を旨として、形や内容を変えながらも時宜にかなう活動が続けられています。そして、これを妨げようとするものには、憤りをもって抗い続けて来た30年間だったのではないかと思います。これだけ長きに亘り、さまざまな困難に直面しながらも一貫した信念をもって続けて来られたことに、心からの敬意を表します。

「従軍慰安婦の判決、日韓の政治問題、特にネットでのヘイト発言など酷くなっていると感じる一方で、大阪のコリアンタウンは観光客が多い。政治と韓流第4次ブームに日本人の意識の乖離を感じる」。これは、日韓協働委員会での呉光現さんの言葉です。

これを聞いて、私の脳裏に浮かんだのは歴史認識で

クリスティーヌ 池住 圭

す。日本聖公会は、1995年の宣教協議会で戦争責任を告白しました。更に、翌年の(定期)総会では「日本聖公会の戦争責任に関する宣言」を決議しました。生野センターの30年を思う時、心を新たに、いま一度ここに立ちかえる必要があると感じています。ますます多様化する聖公会生野センターの活動を理解し、応援するためにとても大切なことであり、同時に、聖公会生野センターの課題は私たち自身の課題でもあると思うからです。31年目を歩み出そうとする生野センターに対して、「これからも応援します」だけではなく、「私たち自身も同じ課題にしっかり向き合います」ではないかと思います。

これからも、聖公会生野センターに学びながら、共に歩ませて頂けたらと、切に思います。

(いけずみ・けい 名古屋聖ステパノ教会信徒)

大阪府立農学校史跡碑



行け猪飼野の畦伝ひ
學の道を履みわけて
朝に鋤の柄をとれば
ここに治産の基あり

この碑の歌は民俗学者の折口信夫(筆名: 釈道空)が詠んだものです

大阪府立農学校は、現在の大阪府立大学農学部の前身で、大阪府が全国に先がけて近代農業の指導者を養成するために明治21(1888)年創設されました。当初、堺市で開校し、2年後の明治23(1890)年11月に当地へ移転。優美な木造洋式建築の本館を擁し、敷地は約4万3千坪あり、現在の勝山北3丁目、勝山南3丁目です。市街化がすすむ大正15(1926)年、再び堺市に移転しました。いまでは、区役所、消防署勝山出張所、生野警察署や学校などの公的施設が集中する生野区の中核地区となっています。

(生野区役所ホームページより)

大阪府立農学校史跡碑

●場所

生野区勝山北3丁目13番30号生野区民センター敷地内

●交通

市バス『生野区役所』すぐ

20年前を振り返って

ユニテ 今村 祥子

呉光現さんより原稿の依頼があった時、頭に浮かんだのは、ACWCで出会った在日の方の言葉です。「韓国に帰っても日本に住んでいるからと冷たくされる。私達に



前例右が今村さん

ふる里はないの」と言われて何も言えなかったことです。その在日の方々のためにも日韓の関係がよくなって欲しいと心より願っています。

20年ほど前に聖公会生野センターの大阪教区後援会委員になりました。委員の私達にK司祭様からのお話があり、その中の一部ですが、国

が出来ていなかった、してこなかった事を民間人の立場で少しだけ何かできれば、というようなこと、ここにいる私達はそのためのパイプ役であると説明されました。一年(?)程、皆で後援会について話し合いをした後、役員を選出し私は会計に選ばれ鈴木恵一さん(現在京都教区司祭様)からソフトを引き継ぎ、不安だった私は祈りながら、多くの方々に助けて頂いたことを懐かしく思います。2005年に大阪教区後援会企画「韓国訪問の旅」に参加しました。大韓聖公会炊き出し専用バスでの炊き出しの手伝い、ソウル大聖堂の聖餐式、大韓聖公会発祥の江華島天主聖堂訪問、辛い歴史の学び、医食同源の豊かな料理等得難い体験・交流をしました。この旅行では大韓聖公会の勢い・熱意が感じられました。『日韓交流』、ハルモニのための『のりばん』、障がい者のための『くりんモダン』等、多くの活動をされている聖公会生野センターの働きを神様がお支え下さいますようお願い申し上げます。

(いまむら・さちこ 石橋聖トマス教会信徒)

聖公会生野センターとわたし

テレジア 黒澤 圭子

2006年秋に日本聖公会東京教区主催の韓国スタディーツアーに参加し、その参加メンバーで学びのグループを作って定期的に集まっていました。その学びの一環として聖公会生野センターを訪問したのが、実際のお働きを体験した最初でした。

韓国で「ナヌメチップ」*の活動を見て来ていましたので、「人々が暮らす場所へ入っていく教会」という姿を日本でも見ることができ、また同時に、その働きを始める時のご関係者の皆さまの「こういう働きが必要だ」という気づきと、そして動き出した勇気に胸が熱くなったことを覚えています。

さらには、この出会いは、私が韓国と日本、特に済州島と大阪の歴史と現状を学び始めるきっかけともなりました。

訪問した時は、まだ皆さんが集まる時間になっていなかったのか施設を見せていただくだけでしたが、くりんモダンでの楽しそうな活動を拝見することができました。

今、教会はもともと教会が建てられた地に召し出された働きを見失っているような思いをすることが度々あります。地域の悩みが本当に教会の悩みになっているのだろうか、ともすれば自分たちのことで精いっぱい教会にあって、私には聖公会生野センターのお働きはなかなか追いつけない憧れになっています。

(くるさわ・けいこ 東京教区聖テモテ教会信徒)

* ナヌメチップ

1986年から大韓聖公会の若い新学生がスラムに入って社会宣教を始めた。子ども、女性高齢者支援、貧困との関わりが始まり、その後支援の幅を広げて社会の課題に取り組んでいる。

聖公会生野センターの働きに携わって

ニコラス 丹田則史



僕が、聖ガブリエル教会の信徒として、呉総主事のもとで聖公会生野センターのお手伝いを始めたのは、あの阪神淡路大

震災の丁度10日前のことでした。

そして、震災の3日後には、西宮にある三光塾より自転車に乗って2人で被災地を訪問したことを、昨日の事のように思い出します。

当時、僕も若輩者で、あらゆる事について呉総主事から御指導を賜りました。特に、会計処理の件等は、丸一日かけて伝票を書くなど、不慣れな事務作業を見守って下さったことは記憶に新しいことです。

その後、発足された聖公会生野センター大阪教区後援会の教会代表の委員として発足当初よりメンバーとなり、今日に至るまで参加させていただき、長年にわたり

書記担当の常任委員を拝命し、委員会における議事録の作成や委員会開催の案内等の発送に携わらせて頂いております。

その聖公会生野センターも、2022年に創設30周年を迎えます。僕も諸活動に参加させていただき事となり、今からいろいろな企画を思い描いているところです。

とくに、ガブリエル教会の張司祭宣教100周年(2025年)の合同記念礼拝等を記念事業として位置づけ、これからも教会とセンターの発展と新しいビジョンの確立のために注力したいと思います。

今回、こうして寄稿するのは、大阪教区後援会のメンバーとして二度目となりますが、まだまだ年端もいかない若輩者です。ウルリムをお読みの皆様には、センターの行事に奮って御参加賜りますよう、よろしくお願い致します。(たんだ・のりふみ 聖ガブリエル教会信徒)

聖公会生野センターと私

マタイ 眞子 義人



私が聖公会生野センターを初めて訪ねたのは1992年のことで、GFSの学習会に参加した母と一緒に来たそうです。当時5歳でした。

時は流れて大人になり、聖公会生野センターは今の場所に移り、そして意外な場所で《聖公会生野センター》の名を耳にしました。私は21歳で夜間高校に入ったのですが、入学して間もない頃に話の流れで自分がクリスチャンであること、所属教派が聖公会であることを担任に伝えると「聖公会生野センターの呉光現さんはボクの先輩だね」と言うではありませんか!

そして翌年2009年5月に同い年の青年から、聖公会生野センターのボランティア募集の案内をもらい、その中に《こみち寄席の受付》を見つけました。当時の落語ブ

ームの影響で興味はありましたが、高校の授業と寄席の時間が被っており「授業のない9月まで行けないなア」と思っていました。ところがその翌日(寄席の当日)が豚インフルエンザの流行で休校となり、その連絡を受けた直後に聖公会生野センターへ電話していました。指定された時間に着き、呉さんに自己紹介がたら高校のことを話すと「Kさんはボクの後輩だけど知ってる?」と担任の名前が出たので「K先生はボクの担任です」というと満面の笑みで迎えてくださいました。

そういった不思議な縁をきっかけに寄席の受付やクリンもだん美術展のお手伝い、学生時代には韓国語教室を受講させて頂き、今は後援会の委員としても関わらせて頂いています。来年で聖公会生野センターは30周年。これからもどうぞ宜しくお願い致します!

(まなこ・よしと 大阪聖三一教会信徒)

金沢市野田山墓地を訪れて

司祭 アンデレ 松山 健作

京都市にある聖光教会から人事異動により、金沢市の金沢聖ヨハネ教会に赴任しました。金沢と朝鮮半島の関係性について、これから学びたいと思っています。

4月末の主日礼拝前の朝に金沢市の野田山墓地を清掃するため訪れました。野田山は金沢市南西部に位置する豊かな自然に恵まれた地です。16世紀後半に加賀藩主前田利家の兄利久を葬ったのが墓地の始まりだそうです。この地には、歴代の教会信徒やフーパー宣教師の早世したお子さんのお墓があります。

野田山墓地の清掃後、金沢と朝鮮半島について調べていると、興味深いことを発見しました。すでに専門家の方々にはよく知られていることなのですが、この野田山という地は、上海で抗日独立を掲げた尹奉吉ゆんぶんぎ（1908-1932）が逮捕後、処刑され埋葬された地であるということです。

尹ゆん義士ぎしといえば、私自身留学中に韓国の至るところで写真を目にしてきた朝鮮半島を代表とする独立運動家、日本帝国に対抗した「英雄」と言われる歴史的人物です。しかし、日本ではほとんど知られない人物です。いわゆる伊藤博文をハルピンで暗殺した安重根あんじゅんこんと同列にされる「テロリスト」として位置付けられます。

日本では、ヒトラーを暗殺しようとしたプロテスタント教会牧師ボンヘッファーが高評価される一方



(写真) 野田山にある尹奉吉の墓跡

で、ファシズムに対抗した朝鮮半島出身者らが、民族感情のみによって評価されず、名前すら知られていないということに

歴史教育の歪みをおぼえます。それはさておき、尹義士の紹介を少しばかりしておきたいと思います。



(写真) 尹奉吉

尹義士は、1932年4月29日上海虹口公園で開かれた昭和天皇の誕生を記念し、上海の占領を記念する日本帝国の式典において、手榴弾を投じました。彼はその場で逮捕され、日本の軍法会議で5月25日に死刑宣告を受け、12月19日に金沢の三小牛山で銃殺刑が執行されました。その後遺骨は、野田山に埋葬され、1946年3月に在日同胞によって遺骨が掘り起こさ

れ、故国に返還されたそうです。

この事件が興味深いのは、キリスト教の宣教師も関わっていたという点です。尹義士を式典会場まで車で送迎したのは、G. A. フィッチ（1883-1979）という長老教会牧師でした。彼は中国・朝鮮における抗日・反日運動を支援したアメリカ人宣教師です。彼の働きは、尹義士への支援に留まらず、1938年2月南京大虐殺の様相を撮影し、日本軍の行為をアメリカで宣伝したということでもよく知られています。

私たちは歴史の反省を通して、信仰者として武力というものには放棄を誓いつつも、この世における為政者たちの民の生命を踏み躪る振る舞いに対しては、断固として抗う必要があることを教えているような気がします。尹義士が投じた爆弾は、国を奪われ同胞の命が奪われているという憎しみです。彼が海を越えて金沢の地に連行され、若くして処刑されたことを弔いたいと思っています。

(まつやま・けんさく 金沢聖ヨハネ教会牧師)

* 義士：韓国では独立運動のために命を捧げた人物を「義士」と称します。

2020年度会費納入・献金者ご芳名 (2020年4月1日～2021年3月31日 順不同、敬称略)

聖公会生野センターへのご支援ありがとうございます。団体等で一括して納入されるケースもあり、すべての方のお名前が反映されていないかもしれませんがご了承ください。

(複数回ご献金くださった方々も記載は一度にさせていただきました。)

【会費納入者】

熊取谷志郎／小林幸子／林香代子／大西修／井田泉／石脇慶總／奥村貴充／武藤謙一／堀江裕一／三浦恒久／松本潤子／黒田裕／矢萩新一／谷川誠／伊藤美佐子／近澤淑子／卓志雄／小山敏雄／小山紀巳子／前田良彦／有限会社冷麵館春山宗治／出口弘／目崎宗世／尾崎茂雄／榎本房代／植松誠／社会福祉法人神愛会／松陰女子学院／浜名敏白／佐々木庸／神谷尚孝／関ノリ子／寺本眞名／林芳子／奥晋一朗／上田貴亮／小谷美子／浮田真理／若宮英生／保坂久代／高地敬／城下彰／大西憲子／広谷和文／松居勲／目崎宗世／武藤六治／宮脇一郎／磯晴久／アジア国際夏季学校／井口諭／金迅野／神谷尚孝／鍋島久美子／小出裕司／加納実／高橋隆／渡辺貴恵／若村正博／春名英夫／高見久江／博愛社／古澤陽代／高見久江／辻潤／辻彩乃／河野芳孝／山田護／古澤秀利／古澤恵依子／大阪教区婦人会／大阪聖アンデレ教会婦人会／宇野徹／石井英隆／太田順子／渡辺貴恵／野上千春／込山章／橋本祥子／成田吉哉／福永芽久美／森中央／黒川純栄／今西時子／樋口敏雄／竹林敏子／加納佳世子／伊地知敏照／上村玉栄／畑野めぐみ／上田浩子／秋山公子／三宅亨子／高道千恵子／泉迪子／藤田法子／奥津健蔵／奥津由紀子／大野寿美／中尾由紀子／田中廉／河野紀子／野上千春／富谷晋／東敏勝／今西時子／上村玉栄／高橋隆／三宅亨子／粟井茂明／鈴木靖夫／藤田法子／馬道千恵子／込山章／堀武／山口善彦／堺聖テモテ教会／内田照子／今村祥子／立山恭子／服部喜代司／服部慶子／石橋聖トマス教会／桜井揚子／内宮隆夫／香西一恵／長野加代子／辻節子／三宅亨子／樋口敏雄／川村輝夫／相楽弘子／今西時子／坪田敬子／前原潔／本多修

【献金】

加納美津子／山内英子／二見伸吾／増岡広宣／金利明／韓国労働組合総連盟／奥晋一朗／聖バルナバ病院／北関東教区／広谷和文／立教女学院キリスト教センター／京都教区京都伝道区信徒伝道協議会／古澤恵依子／東京聖テモテ教会奉仕会／KIM CHAN／寺本眞名／城下彰／伊藤美佐子／目崎宗世／石脇慶總／小林幸子／林香代子／岸和田復活教会／二見伸吾／桃山基督教会／神谷尚孝／前田良彦／川越基督教会／聖光教会／聖ルカ教会／芦屋聖マルコ教会／京都復活教会／伊勢聖マルコ教会／武藤謙一／草ヶ江幼稚園／富山聖マリア幼稚園／聖パウロ教会／松戸聖パウロ教会／小川けいこ／石垣進／三条聖マリア教会／奥和子／川口基督教会／福永芽久美／大野寿美／東豊中聖ミカエル教会／富谷晋／石毛弘／西宮聖ペテロ教会婦人会／井上るみ子／小林聡／藤田法子／ウイルソンウォーレン／鈴木憲二／千松清美／樋口敏雄／高見久江／大阪聖アンデレ教会／上村玉栄／古澤秀利／田中廉／富田林聖アグネス教会／大阪聖アンデレ教会婦人会／青柳美智子／尼崎聖ステパノ教会／聖ルシヤ教会／尼崎聖ステパノ教会婦人会／佐々木昌子／大阪教区連合男子会／橋本祥子／森中みよ子／西宮聖ペテロ教会／こひつじ保育園／恵我之荘聖マタイ教会／辻潤／大阪聖愛教会／野上千春

2020年度特定非営利活動法人聖公会生野センター会計報告（単位：円）（2020年4月1日～2021年3月31日）

	収入			支出	
	勘定科目	備考		勘定科目	備考
	受託事業収入	11,634,300		事業費支出	4,804,373
	利用者負担金収入	2,895,235		生活介護事業費支出	98,340
	会費収入	926,000		事務費支出	3,397,708
	分担金収入	1,230,000		人件費支出	13,509,694
	献金(寄付金)収入	3,053,918		積立金	180,000
	助成金収入等	163,686			
	管区大齋克己献金から	10,000,000	生活介護事業のため		
	雑収入	73,174			
	経常収入計(1)	29,976,313		経常支出計(2)	21,990,115

経常活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	7,986,198	(1)-(2)
-----------------------	-----------	---------

生活介護事業1千万円は今年度に繰り越し。実質200万円ほどの赤字決算です。厳しい状況が続いています。ご支援よろしく願いいたします。

特定非営利活動法人聖公会生野センターの会員になってください

主のみ名を賛美します。

聖公会生野センターは1992年の発足以来多くの方々のご支援／ご協力の下に活動を行ってきました。活動の拡がりと共に2005年に法人格を取得し、特定非営利活動法人聖公会生野センターとなりましたがその働きは変わることなく会費・献金などの支援によりなされています。会員の種別は以下のようになっております。

これまで正会員・後援会員として活動にご支援くださった方々に再度感謝を申し上げますと共に、一人でも多くの方に会員として聖公会生野センターの活動にご参加をお願い申し上げます。

- ▼正会員：一口 10,000円（何口でも結構です）
※法人の事業の決定に参加できます
- ▼後援会員A：一口 3,000円（何口でも結構です）
- ▼後援会員B：一口 5,000円（何口でも結構です）
- ▼維持会員：A 30,000円／B 50,000円／C 100,000円

※新規に会員になられる方はお名前、ご住所、所属等をご記入の上、郵便・FAX・emailでお送りください。

- ・ email：nsskikuno@gmail.com
- ・ FAX：06-6224-7869
- ・ 郵送：〒544-0002 大阪市生野区小路3-11-19

お名前	所 属 ・ 教 会 ()
ご住所 〒	
正会員・後援会員（A・B）・維持会員（A・B・C）	

送金方法

【ゆうちょ銀行（郵便振替）】

口座番号 00910-1-321780／ 口座名 特定非営利活動法人聖公会生野センター

※郵貯銀行以外からご送金の場合

○九九（ゼロキュウキュウ）店（099） 当座 0321780

口座名 特定非営利活動法人聖公会生野センター

自由献金（ご寄付）は随時受け付けております

発行所：聖公会生野センター
〒544-0002
大阪市生野区小路3丁目11番19号
発行人：磯 晴久
編集人：呉 光現

TEL 06-6754-4356
FAX 06-6224-7856
E-Mail nsskikuno@gmail.com
<http://www.nssk.org/province/ikuno>